

平成27年度第1回「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：岡山の持続的発展のために～おかやま創生を目指して～
- 2 日時：平成27年6月10日（水）
- 3 場所：メルパルク岡山
- 4 参加者：おかやま創生総合戦略に掲げる、少子化対策や地域の活性化に携わっている方々：6名

5 知事挨拶

それぞれの地域において、東京一極集中や地方が疲弊する問題意識を持ち、総合戦略の策定が求められている。本県では、おかやま創生総合戦略と人口ビジョンの策定を進めており、今回は、おかやま創生を考えるに当たり、様々な分野で活躍されている皆様方のご意見やアイデアを伺いたい。

6 発言内容

【ワークライフバランス、子育て支援】

- ・ ワークライフバランスは、企業と働く人のバランスが必要だ。育児する女性に働く場を提供することは、企業の社会的責任であるが、きちんと労働力を提供いただかないと企業はメリットを感じにくい。県には、企業がメリットを感じることができるよう支援をしてほしい。イクボス宣言のようにトップが推進しないと、企業では進みにくい。
- ・ 育児休暇を取得し、子どもと過ごせたことは貴重であった。時間短縮勤務制度は、心に余裕を持って、子どもに優しく接することができ、子どもとの時間が増えた。仕事と育児の支援制度とサポートしてくれる職場の仲間や両親がいてくれたからこそ、仕事を続けることができた。
- ・ 子どもが小学生になっても仕事を続けたい人のために、学童保育の開始時間の繰り上げや土曜日開設を検討してほしい。
- ・ 子どもが小学生になると学童保育がネックとなり、正社員で働くことが難しくなるので、18、19時までの時間延長をお願いしたい。4年生の壁があるというが、夏休みだけでも6年生まで見てもらえると、正社員として仕事ができる。
- ・ 子どもが病気になった時に預けられる場所を増やしてほしい。
- ・ 新庄村では、一人暮らしの動くことが困難なお年寄りの家で、子どもが、親が帰るまでの間、お年寄りの家で洗濯物の取り込みや犬の散歩をするなど、相互に助け合うシステムづくりに取り組むと聞いている。双方のメリットをきちんと示すことは必要だ。
- ・ 空いた公共施設を学童保育として活用し、高齢者の方に子どもを見てもらう仕組みができれば、高齢者にとってもプラスになると思う。

【移住・定住】

- ・ 新しいことや人を歓迎できるような地元住民の意識改革が必要である。
- ・ 地元に戻ることに目を向け、クリエイティブな子どもを育てることが大切だ。県外に出ても、経験や新しい技術を地元を持ち帰り、クリエイティブすれば人口減少問題の解決を見出せるのではないか。
- ・ 地元に戻ることに對しての支援をしてほしい。
- ・ 東京では岡山の優位性を知られていない。例えば、白桃、ブドウもイメージを変えていく戦略をしないと有名にならないのではないか。
- ・ アンケートによると結婚や子育ての経済的負担が問題となっているが、東京と比べ、岡山は経済的に楽に生活できる。田舎のよさを生かすと、移住も増えるだろう。
- ・ 定住促進には地域で孤立しないようなアフターフォローが必要である。

【産業振興・雇用の創出】

- ・ 女性の起業は美容関係など一人企業が多い。女性の起業の学びというより、一人企業と組織化し雇用を増やしていく企業の2つの学びの場が必要だ。起業時に、雇用は地域の活性化に繋がるという考え方や会社体制のつくり方を学べるとよい。
- ・ オカヤマアワードのような企業PRの場があれば、岡山で就職したい学生が増えると思う。岡山で就職することにより中小企業の雇用が守られ、さらに、結婚、子育てに繋がっていく。
- ・ 中小企業もインターンシップなどで企業の見える化をし、学生に働きやすさや良さを知ってもらうことが必要だ。
- ・ 県外から岡山に戻ってもらうためには、小学生の頃から地元の文化や歴史を学び、地元へ愛着を持ってもらう必要がある。
- ・ 中小企業にとって、助言してもらえらる専門家派遣の支援は助かる。行政は人事異動があるが、行政にも専門知識を持った職員が必要だ。

【地域づくり】

- ・ 真庭市はバイオマスで注目されているが、1993年、若い経営者で結成された真庭塾で作り上げたものである。「まにわ発酵's」は真庭市産の味噌・醤油などの調味料で暮らすというコンセプトで、市内の6つの企業が地域づくりをしている。地域おこし協力隊の力を借り、商品開発もしており、雇用も創出していきたい。
- ・ 地域イベントには観光地化させないための努力、いかに住んでいる者が楽しむためのまちづくりができるかが重要だ。まちづくりは時間がかかるが、世代を超えたコミュニケーションで、外部に頼らず、あるものを生かすことが必要である。
- ・ 祭は世代を超えた交流ができるが、地元の文化を守っていく姿勢が薄れてきている。地域の人は祭を大事にしているので、祭を守っていくことは田舎暮らしを大切にすることに繋がる。
- ・ 地域の過疎化、高齢化、少子化などによる個人の困り事に対して、地域企業の連携や地域の元気な高齢者に協力いただく仕組で事業をしている。高齢化地域のニーズを深掘りすれば、具体的な施策が出てくる。元気な集落には元気な中小企業が必要であり、地域の雇用の場を提供するのは、中小企業の役割だ。高齢者の方に仕事をお願いすると、年金に所得がプラスされ、さらにコミュニケーションの場も提供できる。元気な高齢者がいる地域には元気な集落ができる。雇用により若い人にも定住してもらえらる。地域の課題には、これまでの行政主導から、官民が意見交換することで効率的な施策ができるのではないかと思う。

7 知事まとめ

- ・ 地域の活性化、ワークライフバランス、子育て支援など明るい岡山の未来のために活躍される方が増えるよう、また、皆様方がよりよい仕事ができるよう取り組んでいきたいと思っている。
- ・ ご発言いただいた知見、経験、アイデアを少しでも総合戦略の中に盛り込んでいきたい。生き生きトークの他、様々な会や業界・団体からいただいたご意見も盛り込み、今後、総合戦略を策定し、実行していく。
- ・ イクボス宣言を含め、これまでのものと違った資源配分や行動をしなければ、元気がない地域になりかねない。しっかり意識を変え、行動を変えていかなければいけないと思っている。